

# 如水会寄附講義

## 「社会実践論」講義要綱

### (2012年度冬学期)

講義責任者: 筒井 泉雄

2012年10月2日(火)  
オリエンテーション14時40分/15時30分  
東1号館 1201番教室

如水会寄附講義「社会実践論」では、社会の第一線で活躍されている、本学出身の12名の先輩の方々に、オムニバス形式による講義(火曜4限)をお願いしています。

皆さんが、将来への展望を胸に膨らませ、希望を実現するための学問を涵養する指針となるように、また如何に学ぶかを考える指針となるように、「学生時代に何をしてきたか」、「どのように人生を歩んできたか」など、経験に裏打ちされた職業意識、人生哲学、現代産業の現状など、自らの経験を踏まえた講義を、現在第一線で活躍されている先輩の方々にお願いしています。諸先輩講師陣は、自身の歩んでこられた経験と、立場から、社会、日本、世界を鮮やかに切り取り、現代社会や社会での自己実践のありかたを皆さんの前に、広げてくださいます。

講義を聞き、先輩の方々の生き方やグローバルな考え方に触れ、自身と照らし合わせて考え、質疑応答、感想、意見という形で呼応し、ともに学ぶ場を作り出すことで、皆さんのキャリア形成の第一歩を踏み出してください。

なお、本講義は、如水会及び一橋大学後援会「キャプテンズ・オブ・インダストリーを考える委員会」からの資金提供によって運営されています。「キャプテンズ・オブ・インダストリーを考える委員会」は、故永井正(22学)氏が寄附された基金をもとに、一橋大学の学問風土の活性化を目指して活動しています。

	日付	テーマ	講師
第1回	10月 9日 (火)	如水会と一橋大学	関 統造
第2回	10月 16日 (火)	甘えるな! 企業と社員はイコールパートナー	山田 哲
第3回	10月 23日 (火)	日本の大企業ではたらくこと - これまでの成長機会、キャリア開発を振り返って	下保 寛
第4回	10月 30日 (火)	〈東北〉から生存基盤を考える	山内 明美
第5回	11月 6日 (火)	国際開発NGOで働く	佐藤 活朗
第6回	11月 20日 (火)	監査法人で働く公認会計士	北村 嘉章
第7回	11月 27日 (火)	企業人から弁護士になって	江尻 琴美
第8回	12月 4日 (火)	はたらくということ、お金を稼ぐということ	中 康二
第9回	12月 11日 (火)	生き甲斐と職業、どう両立させるか	泉三郎(櫻崎規夫)
第10回	12月 18日 (火)	ジャーナリスト? 企業人? 要は社会にどう関わるかだ!	田畑 正
第11回	1月 8日 (火)	地方×スモール×グローバル - 世界視点と ベンチャー精神を持ち地方で生きるということ	朝霧 重治
第12回	1月 15日 (火)	文系も宇宙を目指す	杉田 尚子

## 第1回 10月9日(火)



テーマ : 如水会と一橋大学  
講師 : 関 統造 社会学部・昭和41年(1966年)卒  
社団法人 如水会 理事・事務局長  
森林インストラクター(東京会、群馬会所属)

大学卒業後、三菱商事に入社、エネルギー関連業務を担当し、New Yorkに2回駐在、中南米、中近東、アフリカ、ヨーロッパ、東南アジア各地を回り、国際取引を通じ貴重な経験を得ました。その経験をもとに青山学院大学経済学部で10年間「エネルギー学」を語る機会を頂きました。教えることは学ぶこと、今でも学んでおります。また平成12年に「森林インストラクター」の資格を取り、多くの方を野山にご案内するなど、どちらかといえば、チグハグな人生を送ってきました。その後、縁あって如水会事務局長を拝命し現在に至っております。この講義では、大学の歴史と一般の同窓会とは異なる如水会とは何かをお話し、併せてご参考までにチグハグ人生にも触れてみたいと思います。

## 第2回 10月16日(火)



テーマ : 甘えるな！企業と社員はイコールパートナー  
講師 : 山田 哲 経済学部・昭和58年(1983年)卒  
株式会社ローソン 上級執行役員 海外事業グループCOO

大学卒業後、東京銀行(現三菱東京UFJ銀行)に勤務した後、日本コカ・コーラでマーケティング、ネットビジネスの起業、スターバックスコーヒージャパンで店舗運営と事業開発、フェニックスリゾートでCEO、ユー・エス・ジェイでスポンサービジネスと経験し、この6月からローソンの海外事業の責任者を務めています。

自分が就職活動の際に考えていたこと、約30年間の社会人生活を通じて学んだこと、自分自身が心がけて来たこと、就職活動をしている学生のみなさんと接して思ったこと、そしてみなさんがこれからの世界で生き抜いて行く上で必要と思うことをそれぞれの企業での経験を踏まえてお話ししたいと思います。

## 第3回 10月23日(火)



テーマ : 日本の大企業ではたらくこと  
ーこれまでの成長機会、キャリア開発を振り返って  
講師 : 下保 寛 社会学部・昭和63年(1988年)卒  
味の素株式会社 経営企画部 コーポレート戦略チームリーダー

明後日から香港に行けといわれて、赴任した香港。買収したばかりの従業員2,000人の会社の代表取締役役に就任。無我夢中で、気づいたら5年半。その間、赤字転落、リストラ・工場閉鎖、事業再生、V字回復と波乱万丈で、一生の仲間を現地でつくって昨年帰国。今はグループのM&Aチームの責任者として、買物・売物を探し交渉を行う毎日。未来の事業ポートフォリオを仲間と描き楽しんでいます。

伝統ある日本の大企業で働くこと、そのなかで自分の夢を追いつけること、スキルを身につけ、経験を積み増して、自分の市場価値を向上させ続けること、家族や地域の一員として自分の役割を果たすこと、それらをぜんぶ欲張りに成立させる私のチャレンジについて、等身大でお話ししたいと思います。

## 第4回 10月30日(火)



テーマ : 〈東北〉から生存基盤を考える  
講師 : 山内 明美 言語社会研究科博士課程(在籍中)  
宮城大学 南三陸復興ステーション 特任調査研究員

わたしは、まだ博士課程の学生なのですが、大学を1年間休学して、郷里の宮城県南三陸町で復興支援の仕事をしています。昨年の3月11日。東京も大きく揺れました。震災の翌朝、わたしの故郷は沼地のようになって、壊滅していました。被災地は、裸一貫。これからすべてを一から創って行かなくてはなりません。震災以後、わたしたちの「生のあり方」そのものが根底から問われています。新しい社会を構想する。いま、そんなことが果たして可能なのか…。みなさんと一緒に考えたいと思います。

## 第5回 11月6日(火)



テーマ : 国際開発NGOで働く  
講師 : 佐藤 活朗 社会学部・昭和53年(1978年)卒  
公益財団法人 プラン・ジャパン 事務局長

皆さんは未来をどのような社会にしたいですか。期待や希望はありますか。  
在学中のゼミは社会人類学、アジア・アフリカなど開発途上国に興味を持ったことをきっかけに、卒業後は開発途上国の開発・支援を仕事とし、その間に3つの国に駐在しました。政府機関から民間企業勤務を経て、現在は国際開発NGO(非政府機関)で、途上国の子どもたちの生活改善に取り組んでいます。途上国開発やNGOとはどのような仕事なのかお話しします。  
皆さんは一橋で身につける社会科学的な発想や知識を駆使して、将来企業を始め社会の各所で活躍すると思います。社会問題に取り組む経験を紹介することで、未来の社会を担う皆さんの参考になればと思います。

## 第6回 11月20日(火)



テーマ : 監査法人で働く公認会計士  
講師 : 北村 嘉章 商学部・昭和62年(1987年)卒  
有限責任監査法人トーマツ  
公認会計士 パートナー 経営会議メンバー 監査ERS業務本部長

“会社勤めはしたくないな”という不純な動機で、公認会計士試験の勉強を学生時代から始めました。そんな私でしたが、会計士の会社である監査法人勤めも、四半世紀が過ぎました。  
会計士の役割、責任は時代とともに変遷しています。会計、監査の専門知識の充実、特に昨今は国際会計基準(IFRS)への移行に備えたブラッシュアップを続けなくてはなりません。さらにクライアントサービス能力、グローバル組織の運営においても常に革新が求められます。単なる監査屋でない公認会計士が求められています。学生の皆さんに公認会計士の働きを理解していただき、将来を考える参考にしていただければ幸いです。

## 第7回 11月27日(火)



テーマ : 企業人から弁護士になって  
講師 : 江尻 琴美 法学部・平成9年(1997年)卒  
敬和綜合法律事務所 弁護士

大学卒業後、大手損害保険会社に就職しました。同期105人中、女性総合職は1人。保険の企画部門でよき先輩同僚に恵まれ、合併も経験しましたが、いつしか、「より専門的な知識や技術を身につけ、もっと人間の顔の見える仕事がしたい」という思いを持つようになり、7年勤めた会社を退職。ロースクールを経て弁護士になりました。  
大学時代は予想しなかった道を進むことになったときの迷いや不安、「事実を見つめ、評価を与える」という法律家の思考方法を持つことの楽しさ、企業での経験と弁護士の仕事との関わり、弁護士の仕事の現状やこれから、などについてお話しします。皆さんが、一生を賭けてやりたい仕事を見つけるための一助となれば幸いです。

## 第8回 12月4日(火)



テーマ : はたらくということ、お金を稼ぐということ  
講師 : 中 康二 経済学部・平成3年(1991年)卒  
オプティマ・ソリューションズ 株式会社 代表取締役

私は、日本の高度経済成長期の中で育ち、バブル景気を経験した最後の世代です。新卒でソニーに就職し、14年間にわたり幾つかの仕事を経験した後、プライバシーマーク(個人情報保護の認証マーク)のコンサルティング会社を起業して今日に至っています。私からは、はたらくとはどういうことなのか、お金を稼ぐとはどういうことなのか、自分の経験から獲得した知識を学生の皆さんにもご披露したいと思います。

## 第9回 12月11日(火)



テーマ : 生き甲斐と職業、どう両立させるか  
講師 : 泉 三郎(本名 榎崎 規夫) 経済学部 昭和34年(1959年)卒  
ノンフィクション作家、岩倉使節団研究家、NPO米欧亜回覧の会理事長

人生には大事な選択が二つあります。一つは職業、一つは伴侶です。「職業は生活の背骨である」とニーチェもいっている通り、職業の選択は殊のほか重要です。そこで最も望むべきは生き甲斐のもてる仕事につくことです。でも、現実にはなかなかそうはいきません。生活の資を稼ぐために、意に添わない、好きでもない仕事もしなくてはなりません。そこで仕事を二つもつ生き方も一つの実践的な知恵だと思います。私は、そうした意味で長い間「二足のわらじ」を履いてやってきました。いわば「二刀流の生き方」ですが、「二兎を追う者は一兎も得ず」という面もあります。さて、どうしたらいいか。あなた方の素晴らしい人生のために、私なりの「生涯二毛作の体験的職業論？」でも語りましょうか。

## 第10回 12月18日(火)



テーマ : ジャーナリスト? 企業人? 要は社会にどう関わるかだ!  
講師 : 田畑 正 法学部・昭和61年(1986年)卒  
株式会社テレビ朝日 経営戦略部長

18歳の夏、政治記者を志した。言論の力で政治を正しい方向へ導く。その決意を胸に大学では憲法を専攻した。恩師からは「民主主義を広めよ」と説かれた。卒業後、テレビ朝日で26年間、ひたすら政治や経済の最前線取材してきた。歴史的な場面にも立ち合った。しかし、この国は本当に正しい方向に向かっているのか? 個人的な充実と同時に自問する日々が続く。

今年の夏、49歳にして経営戦略部に異動した。青天の霹靂だったが、いまはテレビ局がどうあるべきかを、日夜、経営という側面から議論している。SNSの時代に世の中と個人をつなぐ「公器」を、正しく存続・発展させることが民主主義には不可欠だと考えるからだ。この講義が、「自分は何をもって社会に関わるか」を考えるきっかけになれば幸いです。

## 第11回 1月8日(火)



テーマ : 地方×スモール×グローバル  
ー世界視点とベンチャー精神を持ち地方で生きるということ  
講師 : 朝霧 重治 商学部・平成9年(1997年)卒  
株式会社協同商事 代表取締役社長

一橋は経済学部で入学し商学部で卒業しています。学生時代から世界との繋がりを意識していました(但し実経験は正規の留学ではなくバックパッカーとしての遊学ですが)。卒業後は三菱重工の海外プラント営業としてスタート。大組織に属するよりもベンチャーだと思っていたので、その後欧米のビジネススクールに行った後起業というのが当時のプランでした。人生には縁とタイミングがあります。そのプランは1年で変更となり、妻となる女性の父が創業した故郷埼玉県川越市の農業系ベンチャーに誘われ参画することになりました。

当社の活動クラブビール「COEDO」とオーガニック農業を通じて、現在の日本の地方の位置付とスモールベンチャーでグローバルに生きる私の体験をブランディング視点も交えお話しします。

## 第12回 1月15日(火)



テーマ : 文系も宇宙を目指す  
講師 : 杉田 尚子 法学研究科 平成7年(1995年)卒  
宇宙航空研究開発機構(JAXA)  
産業連携センター 宇宙産業連携グループ 主任

国際関係論の研究者を目指し一橋に入学。学校は大好きだったものの学者生活は向かないと苦渋の決断の末、宇宙開発事業団(現 宇宙航空研究開発機構)に就職。当時の指導教官に「長いこと教えているが、自分の生徒が宇宙の仕事に就くのは初めてだ。」と言われて早17年が経ちました。法務・財務等の組織が必要な仕事に文系が従事するのは勿論のこと、宇宙の仕事は想像以上に社会科学の観点からもおもしろい分野でした。過去半世紀、国際競争と国際協力で宇宙開発が進められてきたこと。その中で日本はロケットや人工衛星を開発し、最近では「はやぶさ」が帰還、まもなく日本人初の国際宇宙ステーションの船長が誕生します。そして今宇宙政策の重要課題の一つは宇宙ビジネスの強化です。実務・学問両面から「宇宙」を考えてみたいと思います。